三好議員（自民議連）

平成 28 年２月 25 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）命の教育の推進について

現在，小学校や中学校の道徳の授業の中で，「命の教育」も行なわれているが，対応にはバラつきもあると聞いている。県教育委員会として，子供達が「命の重み」としっかりと向き合えるよう，引き続き積極的な対応を行っていただきたい。

私は，「命はリレーするもの」，「命はリレーさせなければならないもの」という当たり前のことを，「家族」をテーマとして，もう一度正面から，子供達に教えていくことが必要であると強く感じている。その中で，「生きる勇気」と「受け入れる力」を，子供達が，自ら心の中に少しでも芽生えさせることができるのであれば，これ以上ない「命の教育」になると考えるからである。

虐待を受けている子や，複雑な家庭環境下にいる子のことを考えると，躊躇しがちなテーマかもしれないが，決して逃げることなく，正面から考えていかなければならない重要なことであると考える。

そこで，子供達に自らの「命の重み」を再認識させ，たくましく生き抜く力を育む教育を推進する観点から，「命のリレー」，「家族」というテーマに対し，現在，我が県の道徳教育においては，どのような取組がなされており，また，今後，どのような工夫をしていくのか，教育長の所見を伺う。

（答）

命を大切にする心を育む教育につきましては，児童生徒の発達段階に応じて，道徳の時間をはじめ，教科や特別活動，総合的な学習の時間など学校の教育活動全体を通じて取り組んでいるところでございます。

例えば，小学校の道徳の時間に，我が子の誕生の喜びや家族の死の悲しみを保護者や地域の方に語ってもらうことで，家族の愛情や命はリレーされていることを実感させ，命を大切にする心を育んでおります。

また，中学校では，文部科学省作成の道徳教育用教材「私たちの道徳」を活用し，家族の絆や誰もがいつか必ず死を迎えるという有限性，命が過去から現在，未来へと脈々と受け継がれていくという連続性を実感させ，命を大切にする態度を育てているところでございます。

引き続き，児童生徒が生や死の意味について真剣に考え，命の大切さや生

きる喜びを実感する指導を充実するとともに，道徳教育研究指定校で「生命尊重」をテーマに研究している学校の取組事例や成果を県内に普及するなど，命を大切にする心を育む教育をより一層推進してまいります。